

いのちの森の日<4月>（五感で春を感じよう）

対 象：小学生以上の親子
 人 数：親子40人～親子60人
 教科／分野：総合的な学習の時間（理科・社会）、生活科
 授業時間数：3.5時間（毎1回の活動の4月分）
 場 所：学校ビオトープ（いのちの森）

ESD プログラム への想い	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回実施される「いのちの森の日」という自然体験活動を通して、自然環境とそこに生息する生きものへ関心を持ち、地域や自分たちの暮らしを見直し、持続可能な社会の実現に向かって努力する気持ちを育みたい。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 埋立地にあるいのちの森、この地域においては貴重な自然体験の場であることを再認識し、守り育てる行動をできる子どもを育てる。 いのちの森の里山フィールドである大野田の里山と学校ビオトープであるいのちの森を行き来し、その違いや自然環境の大切さ、いのちの大切さに気づく子どもを育成する。 自らの営みも考え直すきっかけとしたい。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 埋立地にある学校ビオトープと里山を比較体験し、生物多様性について考えられる環境があることが特徴。それを生かすことプログラムを実施。 両方の環境とも、人間が手を加えることによって、生物多様性が保たれる。それを実体験できる。また、里山整備により、生物多様性が豊かになっていく体験もできる。
持続可能な社会づくりの構成概念	<p>多様性：里山は、雑木林・田んぼ・小川・ため池・原っぱなど多様な環境があることで、多様な生物が生息していることに気づく。</p> <p>相互性：生物が生息する環境づくりに、農業・人の暮らしなど関わりがあることを知る。</p> <p>連携性：生き物が棲める場づくり、またそれを維持するために、多くの人が協力し、連携していることを知る。</p> <p>責任制：生きものが棲める環境を守り育てるために、自分でできることを見つける。</p>
重視する能力・態度	<ul style="list-style-type: none"> ③多面的・総合的に考える力。 ④コミュニケーションを行う力 ⑤進んで参加する態度 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦他者と協力する態度

プログラムの流れ

時間	ねらい	方法 場所	内容
30分	<ul style="list-style-type: none"> 新入生親子の学びの場。 2年生以上は、それを守り、育てる責任を感じる。 	いのちの森 講義	<ul style="list-style-type: none"> ◆いのちの森のミニ学習会 ・いのちの森について、その歴史、仕組み、マナー等みついで学ぶ。 ・シイタケ（春子）を里山整備につなげる。 ・野鳥の話

30分	<ul style="list-style-type: none"> ミニ学習会で学んだことを実際にフィールドで確認する。 水の循環に気づく。 生物多様性を守るマナーを確認する。 	いのちの森 全員参加型	<p>◆森のガイドツアー</p> <p>いのちの森散策しながら、その仕組み、動植物などについて説明をする。井戸水のお話もする。</p>
40分	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の樹木の変化に気づき、それに合わせた自然の営みを知る。 	同上 同上	<p>◆新緑のスタンプラリー</p> <p>いのちの森の8本の樹木の樹皮や新芽などをヒントに、スタンプラリーをする。 (樹木ごとに1年の変化を写真で示す)</p>
30分	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歳時記、食文化についても考える機会とする。 		<p>◆野草のてんぷら</p> <p>いのちの森の中の新芽や野草を採り、天ぷらにして食べる。 (食感で春を感じる)</p>
40分	<ul style="list-style-type: none"> 自然遊びを通して、自然を身近に感じ、関心を高める。 		<p>◆自然遊び体験</p> <ul style="list-style-type: none"> 草鉄砲作り、草笛作り ハンモック、ターザンロープ体験 食草の話
30分	<ul style="list-style-type: none"> この環境を守り、育てて行く心を育てる 	同上 同上	<p>◆まとめ</p> <p>今日のプログラムで気づいたこと、発見したことをお互いに発表する。</p>
SDGs との 関連性	3：健康と福祉 4：質の高い教育 9：産業・技術革新・社会基盤 11：持続可能なまちづくり 12：持続可能な消費と生産 15：陸上の資源 17：目的達成に向けたパートナーシップ		
学校・地域等 との連携上の 考慮	<ul style="list-style-type: none"> 親子での参加体験は、お互いが学びあう良い機会となるので、可能であれば、親子参加が望ましい。 フィールドでの活動となるので、安全管理など連携して役割を担う。 いのちの森の日で学んでいることを学校、地域にも知らせ、共通理解を深める。 地域の貴重な自然体験の場である「いのちの森」を守り、育てて行く仕組み作り 		
対象を発展させる 可能性	<ul style="list-style-type: none"> こどもだけの参加も、対応可能。 毎月1回実施しているプログラムであるが、単発の参加にも対応可能。 		
その他 補足事項	服装：長そで、長ズボン、動きやすい服装、靴、帽子、 持ち物：網、虫かご、タオル、飲み物、虫刺され薬品等 ※熱中症対策、防寒等季節に適した服装等配慮する		

プログラム作成者名（団体名）：横田耕明：グループ 2000（環境に学ぶ）